

中学校区におけるめざす子ども像 ・正義のひと 善悪の判断ができる ・行動のひと 自ら進んで動ける	・勇気のひと チャレンジできる ・連帯のひと 他者の意見を聴き、他者と協働できる
--	---

堺市立さつき野中学校

校長 佐古田 英樹

令和7年度 重点目標

専門職としての資質能力の向上 × “それぞれの”ウェルビーイングの向上
～子どもをみる 子どもから学ぶ 教職員どうしが学ぶ 保護者の学習参画～

確かな学びの現状

R5年度は4つの情報活用能力(問いを持つ力・情報を集める力・整理分析する力・まとめ表現する力)を育成する授業づくりで、全教職員が一人一回公開授業を行い、実践を蓄積した。成果としては、教職員は情報活用能力を意識して授業をすることができたことである。一方、課題としては、生徒が情報活用能力が身についたことを自覚できているのかという意見が、反省から出てきた。そこで、R6年度は、「自覚」をキーワードに、授業研究を進めていった。学校教育アンケートの結果を分析すると、生徒は各教科と情報活用能力とのつながりを見出しにくいことがわかった。R7年度は、各教科における情報の特性をとらえて、生徒が情報活用能力を発揮できるように、授業者が4つの情報活用能力を意識して授業実践をしていく。また、中学校での基礎的学力の育成の取り組みとして、数学を習熟度別に少人数で実施し、単元テスト、振り返りシートを活用して、個別最適化した授業展開を行う。

豊かな心・健やかな体の現状

数年前から行っている食育への取組や、体育行事として小中合同の大運動会、冬の持久走を行っている。大運動会は全学年合同で行い、中学生が中心となり大運動会の準備や運営を行う。体力の向上を目指しながら様々な学年と交流することで、人間関係の広がりやつながりを通して、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生に憧れを抱くなど、心の育みにもつながっている。また、小中での交流授業を行い、様々な学年と交流しながら学ぶ機会を設けている。異学年との交流をする中で、多様な価値観に触れることができている。小中一貫校の特徴を活かし、生徒の豊かな心、健やかな体が育まれるよう、活動の工夫をしている。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)			
								自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	授業改善	情報活用能力を育成する授業づくりを通して、教科の見方・考え方をはたかせながら、主体的に学ぶ児童生徒の育成	4つの情報活用能力を、教科の見方・考え方を働かせた授業を通して児童生徒に育成する。	教師の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	学校教育アンケートで、88パーセントの教職員が肯定的回答をしている。				
			4つの情報活用能力がそれぞれ自分に身についたと思うか。	児童生徒の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	どの学年も肯定的回答が80パーセントを上回っている				
	基礎的学力	数学を習熟度別少人数授業で実施し、理解度を高める	習熟度別に少人数で実施することで、学力に合わせた個別最適化した授業展開を実施する。単元毎に単元テストを行い、自身の理解度を確認し、振り返りシートでどのように改善していくかを自己分析を行う	生徒の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	学校教育アンケートの3学年の肯定的回答平均が92%を超えている。				
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	小中連携し、9年間を通して人権意識を高め、豊かな感性、思いやりの心を育てる	物事を最後までやりきる成就感、達成感が得られるようにし、自己有用感を高める。	自己有用感にかかわる項目で、肯定評価 平均90%以上	学校教育アンケート	年度末	アンケートにおいて、「自分にはよいところがあると思う」の項目での肯定的回答平均が約84%であるが、係や委員会・児童生徒会活動は頑張ったと感じている生徒は90%を上回っている。				
			1～9年生のたてわり「さつき野トーク」「大阪万博校外学習」をはじめとする異学年交流や学級会活動を充実させ、それらを通して自他の良さを認め合うことができるようにする。	小中異学年交流に係る項目で平均80%以上	学校教育アンケート	年度末	平均85%と異学年交流を肯定的にとらえている生徒が多かった。8・9年生がたてわり活動のリーダーとなったため、7年生にとっては少し物足りないものになってしまったのかもしれない。				
			毎学期、学校生活アンケートと教育相談を実施し、留意すべき生徒には迅速に対応する。	「先生は悩みや相談をていねいに聞いてくれる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	アンケートではじめてわかる事象も多くあり、児童生徒とのコミュニケーションツールとして一翼を担っている。肯定的回答平均は9割を上回っている。				
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	体育の授業をはじめとした体育的な教育活動を通して、運動への前向きな姿勢と意欲を高める。	「運動」にかかわる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	給食が始まり、屋にグラウンドに出る時間が少なくなった。体育の授業では大変前向きな姿勢が見られる。3学年とも8割が楽しい(9年は9割以上)と返答。				
			給食を通して食育を充実させ、生徒が自らの健康について考える力を育成する。食への興味関心が高まる取り組みを実施する。	「食」にかかわる項目で肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	準備や片付けに時間がかかり、食べる時間が短くなることで、食そのものへの関心を持つ機会が得られないことが多い。				
地域協働	信頼される学校	学校行事や日々の学級の様子について、情報を発信する。	●学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページを活用し、子どもの様子や学校情報を積極的に発信する。	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	学校アンケート結果では、89%。見やすさや行事・下校時刻などの訂正をなくし、正しい情報を見やすくレイアウトする必要がある。ホームページは現状ぐらいの頻度での更新を目指している。				

--	--